

<シンデロラと王子様>

この王国は強大な王が治めていた。

近隣辺境はすべて軍事力で手に入れていた。

王には王子がいた。好色な王子が。だが王子は孤独で母親の愛情を知らなかった。女神の末裔のメスたちは全員があまり年を取らず美形、でかばい、デカ尻、長身の者がほとんどだった。

今日は国で一番のお祭りの日。

母と娘たちはこぞって着飾って、また、マイクロビニキー一枚になって、全裸で出かけていく。

イケメン王子様に見初められるため、。そしてイケメン王子様とのめくるめく愛のセックスが待ち構えている。

「あはぁ・ん」

はらりと、踊り子の最後の布切れが落ちた。

旦那と息子の目の前で全裸になる母と娘。弟にとっては姉。

母と姉は一回転してニコっと微笑む。モロパイ、モロマ コ！

初めて見る家族のメスの姿・・・

牝母と牝姉は衣装や表情で誘惑し、王子様からチャンスを勝ち取らねばならない。女たちは夫や息子がいらなくなれば、新しい格上の相手を見つけ、交換することもできる。セックスが上か下かで家族を交換するかどうか決められてしまう。セックスが上手ければ交換できてしまう。

この国で発行される「セックス許可書」。これがあれば誰とでもセックスし孕ませる事ができる。姉でも母でも、隣の家若奥様や学校の女教師でさえ。

仮に持たないものが女を犯した場合、たとえ恋人同士であっても、男は去勢されて玉を抜かれる。

この試験を受けるには、1×歳以上のスケベであること。以上。それだけである。

このイベントは常に開催されており、国民的なイベントになっている、当然高性能なカメラでハメ撮りされ録画され国中のアダルトサイトにて放映されている。が、許可証がないとこの国ではポルノサイトは一切見ることが出来ないのだった。

セックス許可書を持つ男どもは狂ったようにハメ狂い、ポルノサイトも見放題だ！

知らない男に母親がいきなりボテ腹にされる。息子は興奮し狂ったようにシゴき倒す毎日だ。



試験は様々な女（王子牝母親衛隊）と会場のステージ上でセックスし、高得点を相手の女と観客から得られなければならない。100点満点中95点以上が合格点だ。少年一人VS牝親衛隊20人から100人以上。またその後会場で手が上がった牝女とヤらないとい

けない。今日やった少年は手に上がったのが親友の母親とだった。四つん這いになった親友の母親のデカケツに挿入した瞬間、少年は射精し気絶した。中でもイケメンと母親とのセックスが人気があった。この母親は以前からこのイケメンを狙っていたのだ。親友の母親はベッドの上で見事な噴水を吹かせた。少年は許可書をもらえなかったが、別のクラスメイトは日頃の行い（24 時間エアセックス）とラッキーデー（牝はたったの一人）もあり、許可書も無事ゲットしていた。親友の母親のデカケツを抱えあげ原宿のような人の中、生のデカジリをチ　ポを揺らしながら持って帰った。その後そのデカケツと結婚することになった。そして息子は追い出された。

踊り子の少年はまだセックス許可書を持っていない。挑戦したこともない。何千人の前で狂わないといけないのだ。薬によって異常に発情したメスと発情した自分でやりまくらなければならない。それだけでなく高得点を出さなければならなかった。

初めはオスに従順で可愛らしく大人しいメスを与え、徐々にエスカレートさせていき、一気に 20 人近くのメスが解き放たれる。あまり調子にのったオスだと一気に 100～200 人の色情ボインボインたちが解放される。オスを射精させ潮を吹かせ、また勃起させることしか頭がない色情ボインボインたち。

息子は　さい頃ステージイベントでいきなり自分の母と父が知らない若い夫婦と交換スワッピングを目の前で行った経験があった。会話もろくに始まらないまま若い男は狂ったように母の肉尻に腰を振った。初めて見た母の張り詰めたデカパイがブルルン！ブルルン！揺れまくっていた。道ですれ違う感じで、あたり前に始まった。そして母親は誘われて誘いに乗り 20 日間帰ってこなかった。代わりに若いカップルの女のほうが家の中で所構わず父親とやりまくっていた。若いメスは回数を重ねるうちに父親の従順なメスへとかわっていった。そして若い母親をボテ腹にして帰させた・・・そしてこの時父親＝オスという認識が生まれた。

それ以来母親をメスとして見ている。母親のことを考えると勃起する。母親のことを思うと狂ったように発情する。母親＝牝。そのトラウマで激しく興奮するようになった。ドデカイ母尻を見せられ、ポルサイトの動画を見せられ連続絶頂で 10 イキするまで休ませない精通式もある。

そして大抵母の尻やおっぱいに異常に興奮するようになった。

見事セックス許可書を取って種馬に鳴って孕ませまくるか、死地へ行き、死ぬことが出来ない体になって敵を蹂躪するか・・・のどちらかしか男は許されていない。

セックス許可書の取得失敗＝極戦地へ！なんだ。もし戦果をあげて帰ってこられても、どの女にも、前の妻にさえ見向きもされない・・・

「あなたも早くセックス許可書を取りに行きなさい」

母親はいつもオナニーの邪魔をしては息子にそう言っていた。

「国中の女の、母親たちのポルノサイトが見放題になるわよ」

「んふん。もちろん、お母さんのも」

娘と母は全裸にエロ下着で露出する一方で男どもは放置される。目の前で脱ぐ姉のおっぱいを初めて見た弟、母のおっぱいを初めて見た息子。夫の自分よりも数百倍もお金持ちイケメンに抱かれに行く妻。娘のデカぱい。うきうきしている。娘が「ズコバコッパコパコ！」鼻歌のように卑猥な歌を歌っている。性癖のある父親はさも嬉しそうに女たちを眺めている。

母親が息子の頭を撫でて慰めている。突き出されたデカぱい。乳首がぴくぴくっと動いている。母親の本気の興奮を乳首が表していた。

「母さん、今日は新しい出会いに期待しているわ・・・母さんが若い男に・・・カッコイイやりちん王子様にやられるところを想像して興奮してるのね・・・そんなに取り乱して・・・母さんも興奮しているわ。大観衆の前で追い詰められたらって想うと・・・きょうはたくさん抜きまくりなさい、あなたの可哀想な息子を慰めまくるのよ・・・ああん・・・王子のち　ぽお！」

母が目の前でむにむにい、自分のおっぱいを揉む。

「ダメよ、王子は私のもの！あはんっ」

すぐ傍で姉が吐息を立てた。



こないだ息子は隠し持っていたエロ本を見つかり母親にひどく怒られた。全部が母親モノだったからか、エロ本を全部開いた状態でテーブルに置かれて、これからお叱りモ—

ドに入っていく。母親はすでに上を脱いで巨乳ポロロンッ！姉がずっとソファに座ってニヤニヤしながら見て楽しんでいた。

「母親、ネットリネトラレ・・・イヤラシイわね！この国では次の朝には別の男のメスになってる女なんて当たり前よ！」

「エロ本のことじゃないわ。あなたの考えてることがイヤラシイっていったのよ」

「どのページも他人男と母親がヤッてるトコしか載ってないじゃないの！」

息子ち ぽがビクビクッとしなった。

「早くズボン脱いで、チ ポ出しなさい！」

母親は部屋の四角に脚のついたカメラまでセッティングした。本気のお叱りモードだった。

「今から母親の私のポルノサイトにアップロードするわ」

「国中の皆さん見えてます？今から母親のわたしがスケベ息子をしっかりつけまあす！」

「こいつ！このバカ息子っ寝取られモノでシコシコシコシコしてるんです！」

母親はカメラに向かって手を振る。大きなおっぱいがぶるん、ぶるん、と揺れる。

「すごい！もう2千人もコレ見てるっ！やっぱお母さん凄い人気！」

「母親のこんなポーズがいいの！ おちおち掃除もできないじゃないっ！」

四つん這いになった母親の半尻Tバック。

「こいつ、毎日お母さんのお尻ばっか見てるよ」

母は立ち上がってズボンを脱ぎ捨て、生尻を露出させる。黒い布地のTバックだった。

「脱ぎなさい！早くっ！」

姉が協力して、無理やり息子にも脱がさせた。ブルルンッ！ブルッ！ビクビクビクッ！

「ほおら、やっぱりボッキしてるじゃない、あんた」

バッキバキに勃起させたチ ポがブルンブルン揺れ動く。ヘソにまで反りくり返っていた。

「あら？かわいらしいオチ チンッ！やだー小さいのに！バッキバキ！」

息子のプライドが崩れ去る。自分ではそこそこだと思っていたのだ。

母は口を抑えて笑う振りをする。

「あなた、パパのを見たことあるでしょ？アレがち ぽよ？」

母はゆっくりと四つん這いポーズになると息子に続けさせた。

「ほらほら！国中が見てるのよ・・・その腰を振り捲りなさい！」

「腰を振り回して、そのエロ本の状況を説明して同じセリフを全て言いなさい！」

最後にはエロ本と同じ全裸四つん這いポーズになった母から、息子はエロ本に書いてあるセリフを言うように命令された。そして腰振り（同じポーズでエアセックス）の強要！。

「何て書いてあるの！？そのエロ本には何て書いてあるのよっ！」

「母尻に・・・」

「ちゃんと言うのよっ！」

「母尻にドスケベパワー全開！、マックスピストオン爆裂！チ ポ射精ィィ！」

「ああん！あはん！このスケベ！もうカッチカチに芯が入ったち ぽになってるわあ！」

「俺。。俺の欲望を・・・喰らえ！ドビュドビュッドビュウウ！」

「あはん！いいっ！」

母は尻をビクつかせる。母親は息子の顔を見て笑っている。バカにしている。



「は・母尻にっ射精っ！」

「いい！もっとお！」

「ズコズコズコズコオ！、ドピュドピュドピュドピュデュウ！！」